

大津町議会 広報編集特別委員会行政調査

氏名 時松 智弘

視察研修名：大津町議会広報編集特別委員会行政調査

視 察 先：①奈良県王寺町 ②鳥取県大山町 （両日ともオンライン）

期 日：令和6年8月19日（月）～20日（火）

研修テーマ：議会だより編集について

研修報告 意見・感想

（全般）

広報編集特別委員会は8月19日から20日の2日間、町議会委員会室において奈良県王寺町、鳥取県大山町をWEB接続し研修を行った。内容については研修テーマのとおり。以下はそれぞれの議会広報の編集方針や広報委員会の取り組み等について簡潔に所見を述べる。

（概要）

1 王寺町議会

王寺町は奈良県北西部に所在し人口は約2万4千。議会広報誌の予算、印刷製本費は155万となっている。

広報アドバイザーで町広報担当から議会事務局へ出向した村田氏を最大限活用し議会議員では想起しえない様々なアイデアを駆使し紙面構成や写真、イラストの選定、幾度となく行う紙面要素の洗い出し、ユニバーサルデザインに通曉し都会感あふれる洗練されたデザインとなっている。

読み手である住民からは毎号事意見感想が届き、肯定的な意見が大多数を占めるなど手に取ってもらえる広報誌を目指し20代から40代の女性をターゲットにした明確な戦略が功を奏していることが伺えた。

我が町議会へこれを反映させるにあたっては先ず広報に特化した専門性の高い人材の獲得が重要であり、その編集方針を議会全体に浸透させるなどの壁があり、大津町の現状では模倣追随は難しいものと思料するが、予算措置が大幅増額出来れば俯瞰的視点で校閲をする専門性の高いアドバイザーの配置等で対応が可能な場合も見積もられる。

2 鳥取県大山町

大山町は鳥取県北部に所在し、人口約1万5千、議会広報誌の予算、印刷製本費は206万となっている。

特筆は広報委員の校正で議会議員14名の内8名が広報委員会に所属している。特集記事の作成や議会が取り組む「議員と語る会」や「議員討論会」等の記事を掲載し、議員の地位は何か等、議会活性化にも寄与している。

一般質問者が多いところから広報誌のページを半ページ分に制限しているところは本町と同じだが、議員本人が起草する一般質問のフォーマットを厳格に定

め、パソコンに対応できない議員については原稿用紙で字数を統制する等、編集する側にとって簡便な方法で紙面に統制感を生み出している。

読み手である住民からは忌憚のない意見も届いているとの事から町民の関心も高いものと思料する。若い世代をターゲットにした明確な戦略が編集取材にあたる広報委員に浸透しているとともに、今回の意見交換でも活発な意見が飛び交っていた。

我が町も「議会と語る会」や「議員討論会」、こども議会当を通じ開かれた議会、身近な議会の取り組みと相乗して広報誌の魅力化は可能であると思料する。

(結言)

両町の広報委員会は常任委員会とされており、厳格な議事運営のもと高いレベルの広報・広聴の仕組み作りが出来ていると思料する。両町における議会広報の共通点はターゲットを明確にした広報戦略・編集戦略、住民の意見を聞き紙面公営に反映させる等税を使うに相応しい内容となっていた。

議会議員が良質なものを生み出していこうとする明確な強い意志を感じられるものだった。本来ならば現地に赴きそうした熱い意志を感じられるものだった。本来ならば現地に赴きそうした熱意と町風とあいまって体感しなければわからない部分があるが、WEB研修ではそれが大幅に損なわれてしまう点が残念である。

以上、研修について忌憚のない意見を申し述べたが、各自治体議会広報委員会、議会事務局、議員各位に多大なる支援を頂き感謝を申し述べるとともに、WEB会議の環境を整え技術的支援を頂いた町議会事務局に深甚なる謝意を表し結言とする。